

クラシエホームプロダクツ株式会社 ビューティーケア研究所

学生委員 永井彩香

◆訪問者◆

- ・末 梨佳（浅見研究室）
- ・永井 彩香（浅見研究室）
- ・飯吉 優一（生方研究室）
- ・畑瀬 真幸（生方研究室）
- ・丸本 康太（生方研究室）
- ・竹口 彩香（横山泰研究室）
- ・山下 晶（横山泰研究室）

◆概要◆

2016年6月22日、クラシエホームプロダクツ株式会社ビューティーケア研究所（以下クラシエ）を訪問、見学し、鎌田美穂さん、林原さん（2008年本学大学院卒）、辻さん（2012年本学大学院卒）にお話を伺うことができました。鎌田さんは現在、社会人ドクターとして本学にて研究をされており、林原さんは植物の遺伝子について、辻さんは界面活性剤についての研究をされておりました。

◆見学◆

クラシエは薬品、フーズ、トイレタリー・コスメティックスの3つの分野を事業としており、今回見学した研究所は、本学から徒歩30分程の横浜ビジネスパーク内のイーストタワー6・8階に拠点を置いています。

研究所では主に、ボディケア、ヘアケア、フェイスクケアなどのトイレタリー・コスメティックス分野の研究開発を行っており、より商品に近いため、お客様に安心して使える商品をお届けできるように、様々な実験室が整っていました。

例えば美容実験室では、開発したシャンプーを用いて実際に自分たちでヘッドテストをして泡立ちや使い心地を調べたり、微生物実験室では、商品の防腐力を検査していました。容器実験室では商品1つ

1つに合う容器の開発をしたり、香料実験室では何百種類もの香料の原料があり、香料を調合している現場を間近に見ることができました。恒温室では、商品の消費期限を検査しており、日照時間や地域による温度の違いも考慮に入れるそうです。さらには入浴実験室というものもあり、眺望のよいバスルームで入浴剤の効果を確かめることができるそうです。

実験台は1人1つ持ち、充実した分析機器も整っていました。1人でいくつもの商品を担当するので、多様な分野に幅広く従事できるそうです。

このような整った実験設備のおかげで、安全で有用性のある商品が開発されていくのだと感じました。

◆インタビュー内容◆

・職場の雰囲気について

クラシエの研究所は比較的人数が少なく、同期同士はもちろん、上司との距離が近く、そのため離職率が低いことが特徴だそうです。実際、インタビューした3人方は同期ではなかったけれど、打ち解けている様子が伝わってきました。職場の雰囲気は働いていく上で、大事だと感じました。

・女性と仕事について

研究所には、男性25名女性36名の研究者の方が働いていると知り、女性の人数の方が多いことが意外でした。そのため産休を取った後も仕事に戻ってくる人がほとんどで、常に誰かが産休と取っていると言っても過言ではないそうです。その分みんなで協力しながら仕事をしているそうです。

・学生へのアドバイス

自分が何に興味をもっているのかを分析し、自分の中に引き出しをたくさん作っておくことが大切で、それが仕事につながるそうです。他人には

負けないと言えることをもっておくことや、また学生時代の交友関係も大事だとアドバイスしていただきました。これからこれらのことを胸において研究活動をしていこうと感じました。

◆参加者の感想◆

- 実際に研究者の方から企業での研究の意義、やりがいをお聞きすることができ、自分が将来どのような道に進みたいのか明らかになりました。
- 社内での社員間の距離が近く、アットホームな雰囲気であること、人数が少ない分自分から声をあげれば様々な経験をさせてもらえることに魅力を感じました。この経験を生かして、今後の研究に取り組んでいきたいと考えています。
- 今回お話を伺い、企業に勤める研究者の方たちは、今まで話を聞いたり関わったことのある研究者である大学教授とはまた違った価値観を持っていると感じました。特に今回お話を伺ったクラシエ様の研究所は市場との接点となるような、消費者と密接にかかわる研究を行っていたためその違いが分かりやすかったのだと思います。このような滅多にないような機会に参加させていただき、とても今後の参考になり、またとても有意義な時間でした。
- とても親切、丁寧に案内していただいて有意義な時間を過ごすことができました。とても活気があって働きやすそうな環境だなと思いました。
- 初めて企業を訪問し実際に研究者として働くとはどういうことか具体的に知ることができて勉強になりました。

- 企業で働きイメージが湧かず、将来自分の進む未知が分からない状態でしたが、実際の職場を拝見して、自分が仕事としていきたいことが少しずつですが分かったように思えます。
- 今まで研究者として働きたいとは漠然と思っていたけど、実際の職場を見学しインタビューしたことで研究者になることが明確な夢となりました。

◆最後に◆

今回の訪問では、研究所の見学と先輩方のインタビューという、貴重な経験ができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。訪問のためにお忙しい中時間を割いてくださった鎌田さん、林原さん、辻さんをはじめクラシエの研究者の方々に感謝申し上げます。



花王株式会社 すみだ事業所

学生役員 梶井健司

◆訪問者◆

- ・梶井 健司（多々見・飯島研究室）
- ・宇賀 厚志（多々見・飯島研究室）
- ・坂本 文香（多々見・飯島研究室）
- ・井本 有美（多々見・飯島研究室）
- ・永井 彩香（浅見研究室）
- ・末 梨佳（浅見研究室）
- ・井上 耀介（窪田・稲垣研究室）
- ・西本 康平（榊原・五東研究室）
- ・田中 勲平（榊原・五東研究室）
- ・長沼 淳（榊原・五東研究室）
- ・高橋 拓志（榊原・五東研究室）
- ・三橋 舞子（榊原・五東研究室）
- ・本村 百絵（大山研究室）
- ・井上真由美（大山研究室）
- ・本田 拓望（大山研究室）
- ・岩井 美帆（上田研究室）
- ・尾澤 夢実（川村研究室）

◆概要◆

2016年6月20日、花王株式会社すみだ事業所を訪問し、一町千華さんにお話を伺うことができました。一町さんは物質工学科の卒業で、学生時代は界面化学の研究をされていました。最初の3年を和歌山工場で勤務されたのち、現在はすみだ事業所でオーラルケア関連の研究開発をされているそうです。花王は”自然と調和するところ豊かな毎日をめざして”を合言葉に、清潔・美・健康の分野で「よきモノづくり」に取り組んでいます。

◆施設見学◆

すみだ事業所には東京工場が併設されており、化粧品工場・花王ミュージアムを案内していただきました。

化粧品工場では機械化された工場ラインを見学しました。徹底した衛生管理と人の目による最終

チェックがなされていました。また、消費者の声をデータベース化した“エコーシステム”を見せていただきました。ここに寄せられた膨大な問い合わせや意見は迅速に全社で共有され、製品の性能向上や容器の使いやすさの改善に生かされているそうです。こうした取り組みにより品質が保証され、信頼と安心につながっているのだと感じました。

花王ミュージアムでは花王の歴史と最新製品の機能と特徴を学びました。花王は人々の生活習慣や文化の変化に寄り添って、そのときに応じた商品を生み出してきたのだと知りました。また、最新製品には独自のテクノロジーが詰まっていると知るとともに、アタック・ビオレ・メリーズ・ヘルシアなど商品名は有名だが、花王製だと知らなかったものも多く、私たちの生活に花王の商品は根付いているのだと感じました。

◆交流会でのお話◆

<研究の喜びと苦労>

仕事の中でうれしかったことは自分が関わった研究が商品化されたことだそうです。自分が携わった商品が店頭に出され、直接消費者に使用してもらえという点が魅力的であると感じました。

一方で苦労することは、消費者のニーズをくみとり、かつ他社との差別化を図ることだそうです。製品の性能が高度化した現在、さらなる性能向上は簡単なことではありません。また、その新しい性能や機能は消費者が求めるものでなければなりません。一町さんは、これからは消費者の生活により深く入り込んで不満や不自由な点に気づき、新しいライフスタイルを提案していくことが大切になるとおっしゃっていました。

<学生時代について>

大学での研究で大切なのは、ただ実験するだけではなく、自分の研究を深く理解すること、目的

や自分の考えをしっかりと持つことだというアドバイスをいただきました。会社での研究の進め方は大学時代と大きく変わらないそうです。大学時代に課題や目的をはっきりさせ、自ら考え行動する力を身に付ければ、将来役に立つのだとわかりました。そのため、研究成果だけでなく、研究過程を大事にしていきたいと思いました。

◆参加した学生の感想◆

- 研究職の仕事内容は、今まで漠然としていたが、先輩から直接お話を伺うことができて、前よりイメージを掴むことができたので良かった。
- 私たちにとって知名度の高い洗剤や石鹸などを製造している企業を訪問して、どのように製品が開発され、改良されていくのかが分かった。また、実際に研究職をされている方のお話を聞いて研究職についての漠然としたイメージからかなり具体的なものになった。
- 研究職として勤務されている方のお話を直接聞いたことで仕事内容の具体的なイメージを掴むことができた。研究室で行っていることと通じるところが多くあったので今後研究活動を続けていく上でのモチベーションがあがった。
- 研究意義の話が強く印象に残った。「製品が高度に発達した現代では、既存の価値による製品の差別化が困難なため、新たな価値の提案が必要にな

る」というような話を聞いて、企業研究の厳しさと面白さを知った。大学での研究も、何も考えないでしていると「作業」になってしまうので、意義を意識することが大切だと教わった。

- 今まで、研究所で働くことに対してほんやりとしたイメージしかなかったが、今回の訪問で内容こそ違えど、大学での研究の取り組み方とほとんど変わらないことがわかった。今やっていることが将来の役に立つと考えて、これからも精力的に研究に取り組みたいと感じた。

◆最後に◆

今回の訪問で普段なかなか聞けない研究者のお話を聞くことができ、貴重な経験をすることができました。この場をお借りして、訪問にご協力くださった一町さん、そして花王の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

